



04

銀座街づくり会議

www.ginza-machidukuri.jp

92

銀座では 安心安全なまちづくりの一環として、 ユニバーサルマナーの周知に取り組んでいます!



全銀座会G2020と銀座街づくり会議は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、銀座の課題や問題点を洗い出し、2020年以降につながる新しい銀座のビジョンを描こうとする活動をしています。

建物の間口や敷地も小さい銀座においては、大手デベロッパーが大規模な投資を行うような開発は起こりにくく、それが銀座の街の特徴となってきました。個性的な中小専門店・飲食店が集まり、それらの店をめぐる街歩きの楽しさが、銀座の魅力を生み出してきたのです。

しかしそんな銀座の課題のひとつに、「バリアフリー」があげられます。銀座の通りには段差も多く、地下鉄出入口をはじめエレベーターやエスカレータが整備されていない場所も少なくありません。また、ビルや店内にも入口の段差、狭い階段、狭いトイレが多く見られます。少しずつ改善はしつつありますが、既存の空間をすべて改装することは、不可能とってよいでしょう。

高齢化が進み、30年後には人口の35%が高齢者になるといわれています。その時には今の自分も高齢者のひとりです。特別な人のためでなく、未来の高齢者である自分を含めた多様なお客様を安心・安全な銀座でおもてなしするために、街歩きの際に役立つ情報を発信したり高齢者・障害者のお客様に声をかけ、お手伝いできることをお聞きし協力するというソフト面の対応で、ハード部分のマイナスを積極的にカバーしていきたいと考えています。



「全銀座会 G2020 (GINZA2020)」は、2020年東京五輪大会の開催決定を受け、全銀座会内の各構成組織や各委員会に関わる横断的な組織として発足した全銀座会の一委員会です。2020年東京五輪大会の開催に向けて、銀座に対する外部からの様々な提案や情報提供の窓口、情報発信、情報共有、アレンジなどを行っています。

銀座で働く人たちがAED講習を受講したり、AED設置マップを作成していることもそのひとつです。また、銀座公式ウェブサイト「Tokyo Ginza Official (www.ginza.jp)」では、バリアフリートイレのマップを掲載しています。銀座地区内の多機能トイレの場所、オストメイト対応、ベビーベッドなどの設備がわかるトイレの見取り図と内部の動画を紹介しています。

また、銀座で働く人ひとりひとりが、未来の高齢者である自分を含め、障害を抱える多様な人たちの立場から街や店を見て、積極的にコミュニケーションがはかれるように、「ユニバーサルマナー



ユニバーサルマナー協会公式マーク
<http://www.universal-manners.jp>

ー検定」(社)ユニバーサルマナー協会)の受講を推進しています。これまで40社、約75人の銀座の経営者、従業員が3級を取得しました。

これからもいろいろな方に快適に安心して街歩きを楽しんでいただけるよう、バリアフリーとユニバーサルマナーに関する取り組みをすすめてまいります。